



# リバタリアン

月  
刊

ホームページ  
<https://institute-for-libertarian.org>  
 メールアドレス  
[info@institute-for-libertarian.org](mailto:info@institute-for-libertarian.org)

発行所 リバタリアン協会  
 編集・発行人 前川範行

## LBGT法案に対するリバタリアンな見解

LBGT理解増進法案が注目を集めている。この法案は、6月13日に衆議院で可決された。参議院を経て21日に成立する見込みだ。与党自民党も当事者団体も本法案に対して反対しており、左右両翼から反対の声が上がっている。ある反対派は「『不当な差別』や『多数派が安心できる範囲で』という文言は差別を助長する。差別禁止法を作るべきだ」と言い、別の反対派は「トランスジェンダー女性を騙る不審者によって、女性の安心できるスペースが減る」と言う。また別の反対派は「この法案によって利権が増える」と言う。

本稿では、もともと、上記の衆議院可決法案を検討するつもりだったが、別の会派による「性的指向又は性自認を理由とする差別の解消等の推進に関する法律案」(以下、本法案)を検討した方がリバタリアンの立場を明確にできると考えるので、こちらについて検討する。リバタリアンは可決案に対しても批判的であることに変わりはない。

### 本法案の概要

本法案の概要を——リバタリアンの関心に沿って——説明する。本法案によれば、国及び地方公共団体(本稿では以下、政府という)は、この法律の趣旨にのっとり、性的指向又は性自認を理由とする差別(以下、LBGT差別)の解消等の推進に関して必要な施策を策定し、及びこれを実施しなければならない(3条)。行政機関等及び事業者はLBGT差別による社会的障壁を解消するため、施設・設備を改善・整備し、関係職員の研修等に努めなければならない(5条)。学校長はLBGTの理解増進のための研修、普及啓発をし、LBGT差別を解消し、当該差別によって学習環境が害されることのないように必要な措置を講じなければならない(19条)。政府は、LBGT差別等に関する相談に的確に応じ、及び支援団体による支援に係る情報の提供その他の必要な支援を行い、並びにLBGT差別等に関する紛争の防止又は解決を図ることができるよう、必要な体制の整備を図るものとする(20条)。21-22条は、政府が啓発活動を行うよう定めている。政府のLBGT差別に関わる事務は、性的指向・性自認差別解消等支援地域協議会(以下、協議会)を組織することができ(23条1項)、支援団体その他の団体、学識経験者、その他政府が必要と認める者を構成員に加えることができる。内閣府に、性的指向・性自認審議会(以下、審議会)を置き(27条1項)、審議会はLBGT差別を受けた者とその支援に従事する者、学識経験者の中から内閣総理大臣が任命する。

### LBGT理解増進法のリバタリアンな理解

確かに、LBGT差別を解消したり、理解を増進するという本法案(建前)は、多くの人にとって「善い」ものかもしれない。しかし、以下で検討するように、それはリバタリアンな権利を侵害するのみならず、知識人や活動家に不当に利益を分配し、差別解消への逆効果を生じさせるだろう。

まず、第一に、**本法案は自己所有権の侵害を拡大する**。本法案に規定されている施作を実施するために必然的に税金が投入されるからである。「課税は強盗」というリバタリアンの理解に代表されるように、課税は必然的に自己所有権(ここでは主に財産権)を侵害する。また、税金を投入しないとしても、事業者が施設・設備を改善・整備するのであれば、事業者に負担を押し付けることになり、自己所有権を侵害する。

読者の中には「リバタリアンなのにLBGTの自由を尊重しないのか?」と考える人もいるだろう。確かに、リバタリアンは性的指向や性自認に基づく法的区別に反対するが、同様に、政府の介入にも反対する。その理由は、上記のように自己所有権に反するのみならず、以下で検討するように本法案が利権のために用いられ、さらに逆効果を報じさせると考えるからである。

第二に、**本法案は知識人や活動家の利権となる可能性が極めて高い**。まず、本法案の推進者と受益者を確認しよう。本法案の推進には——LBGT当事者もそうであるが——いわゆる左翼知識人や活動家が関わっている。本法案により利益を得るのは——LBGT当事者もそうであるが——協議会や審議会の役職を得る知識人や活動家である。これを前提とすれば、本法案に関して活動家や知識人は利害関係を有しており、本法案の正当性には疑問が残る——訴訟法において、裁判官の忌避が定められていることを想起せよ。このことを無視して、政策決定に右翼知識人が関わったとされる派遣労働法や、大阪の上海電力問題、「森友・加計・桜問題」を批判するのは首尾一貫性に欠く。

第三に本法案は、LBGT差別の解消という目的が妥当だとしても、**その手段に疑問が残る**。リバタリアンが政府を信頼しなすぎるだけかもしれないが、検討する価値はあるだろう。

まず、(例えばLBGT差別に関する)知識や経験は偏在しているため、中央集権的な政府は、その情報を収集し活用することができない。政府を構成する議員は、選挙に当選し収入を維持するため、主に票田(ロビイストや圧力団体、利益団体)により情報を収集することになる。政府の持つ情報は偏っており、従って政策も偏らざるを得ない。同性婚に関して、一夫一妻的規範に回収されたくない同性愛者が存在するように、性的マイノリティの中にも様々な考えを持った人がいる。本法案を推進した人々が性的少数派の利害を代表するとは言い難い。

## 目次

- 1 LGBT法案に対するリバタリアンな見解(中条やばみ)
- 2 ソフトウェア特許FAQ(neural-pavlov)
- 3書 『リバタリアンが社会実験をしてみた町の話』(阿奈城なき)
- 4訳 コンキンとのインタビュー2(訳:前川範行)
- 7訳 「リバタリアン左派運動入門」(訳:前川範行)
- 8 ユートピア4:婚姻制度廃止(中条やばみ)
- 10 SFLイベントレポート:アイン・ランドとリバタリアニズム(いとう ひかる)
- 11 箕面市減税会が発足(復活)しました!(箕面市減税会)
- 12 リバタリアン減税会発足について(リバタリアン減税会)

差別解消を理由に規制を貸したり、インセンティブを操作することは当事者を市場から排除する可能性がある。自由市場では、同等の生産性を持つ労働者には同等の賃金を支払うよう経営者に圧力がかかる。ある会社に、生産性が同等の多数派と性的少数派がいたとしよう。本法案によって少数派の雇用に追加の費用が必要になれば、経営者は性的少数派を雇わないか、解雇するインセンティブが生じる。ところで、政府の失敗によって性的少数派が不利益を被っている例は多い。例えば、借地借家法は同性カップルに対して不利に働いている。同法は、貸主に強力な「保護」を与えることで、貸主のリスクを増大させる。賃貸物件の供給数は制限され、家賃・初期費用が高くなり、部屋の多様性がなくなる。加えて、貸主が借主を退去させるためには大きなコストがかかるため、貸主への事前審査は強くなる。女性労働者は平均的に収入が低いので、このことは特に女性同士のカップルにとって大きな負担になる——もちろん男性同士のカップルや、異性愛者も不利益を被る。

次に、本法案は人々を「納税者」と「税消費者」に分断し、性的少数者とそれ以外の人々の対立を生じさせる税収や予算の拡大は、納税者の負担であると同時に、税消費者の利益になるから、両者は対立せざるを得ない。差別解消のために税金を投入すればするほど、納税者の負担は増大・維持される。従って、租税負担感の強い庶民階級は、自らの生活の不満を性的少数派に向けるようになる。少数派は社会的立場が低く、非難の対象となりやすいからだ。こうして、**税負担に苦しむ庶民と、社会規範に苦しむ性的少数派の闘争が始まる**。一方で、知識人と活動家は両者から税収入を得る。

平等主義者の間で交わされた論争に「再分配と承認のジレンマ」がある(2)。この問題は、アイデンティティを「承認」することが「再分配」を阻害する一方、「再分配」により差別(誤承認)が生じる問題だと理解できる。例えば「女性は」と言っ、性的アイデンティティを「承認」すると、「女性らしい」労働——保育や看護の分野、育休や生理休暇などによる所得の低下——が固定化される。低技能労働者が就くことのできる割の良い夜勤業務の多くは、女性の「保護」を目的とする各規制によって、女性を労働市場から排除している。積極的格差是正によって職を与えたり、所得を分配すると「女ってだけで仕事が云々」とか「生活保護者は云々」「子育て世代は云々」と言っ差別が生まれる。

これに対してリバタリアンは、**そもそも政府の介入が様々な問題を引き起こすと考える**。むしろ、文学や映像作品、その他の表現の自由な交流(表現の自由市場)こそが、人々の協力関係を生み出すのではないだろうか? 上記で見たように、利害の対立は当事者に対する反感を生み出す——それが合理的か否かは関係ない。性的少数派の存在が認識され当たり前になるには、純粋に面白い作品や、感動的な作品の普及による方が反発は少ないだろうし、結局は本法案の目的も効果的に達成されるだろう。

#### 差別概念の不明確性

LGBT差別禁止法を制定すべきだと考える人たちがいる。この人たちが言うには、「不当な差別」という文言は「正当な差別」の存在を意味するので不適切とされる。しかし、そもそも差別が何を意味するのか、全く不明確である。とりあえず、差別とは「その人の属性を理由に、異なる取り扱いをすること」とでもしておこう。

人間がある目的を達成するために行われ、行為には取捨選択を伴うのであれば、全ての行為は差別的行為である。例えば、今日の晩御飯を「カレー」にするか「シチュー」にするか迷っている人がいたとしよう。この人がカレーを選択するなら——少なくとも外形的には——価値順位は(カレー>シチュー)となり、カレーとシチューを差別することになる。好きな人と付き合うにせよ(この人>あの人)と言った具合に差別している。「いやいや、カレーかシチューの問題とは全く違う! 性的少数者は不利益を被るのだ!」この時点で「『正当な差別(シチュー差別)』と『不当な差別』の区別を認めてしまっているのではないか?」という疑問はさておく。確かに、

他人に不利益を生じさせる差別が存在する——同性カップルは異性カップルよりも賃貸契約で不利である等。しかし、それは性的少数者に限らないのではないだろうか? 例えば、Aさん(女性)が交際相手として、Bさん(女性)よりも私(男性)を選んだとしよう。Aさんが、Bさんと私の性別の違いに着目して、私を選んだらそれは差別だとして非難されるべきだろうか? Bさんは、私がいなければ、Aさんと交際できたかもしれず、不利益を被っていると言える。Aさんは、こうした不利益から恣意性を排除するため、コイントスで交際相手を決定すべきだったのだろうか? 否、Aさんは交際する相手を選択する自由がある。企業採用の場面でもBさんは、私の学歴や能力、見た目、受け答えの仕方と比較され、不採用になり不利益を被るかもしれない。企業は抽選で採用すべきか? このように、不利益の有無は差別を判断する基準とは言えない。

#### 身体性の問題

本法案や修正案に関する世間の関心の一つに「身体的にも主観的にも男性である人が、女性用スペースに侵入するのではないか」という不安がある。法律から(直接的には)そのような帰結がもたらされるわけではないだろうが、実際のところ人間は法に従って行動するわけではない。法を破る人はいるし、本法案を盾に弁明する者も現われるだろう、ということとは否定できない。

ここでも自己所有権は役に立つ。トイレや更衣室、公衆浴場などの性的区分を、その所有者に委ねたとしよう。各々の所有者は、自らの施設を顧客に利用してもらうため、利用者のニーズを反映するインセンティブを持つ。さらに、自らの顧客以外を無視できるため、その施設の利用者の情報(顧客の要望)を収集する能力が——政府と比べて——高い。自由市場は、女性用スペース(異性を排除するサービス)を適切に配分するだろう。

(中条やばみ)

#### 注釈

(1) 衆議院「性的指向又は性自認を理由とする差別の解消等の推進に関する法律案」[https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb\\_gian.nsf/html/gian/honbun/houan/g20805055.htm](https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_gian.nsf/html/gian/honbun/houan/g20805055.htm)、2023/06/21確認。

(2) 平等主義者のナンシー・フレイザーは、「再配分」と「承認」が排他的な択一関係にあると見做すのは誤りで、「再配分か承認か」ではなく「再配分と承認」の両方が必要だという見解を示している。Nancy Fraser, Axel Honneth(2003) *UMVERTEILUNG ODER ANERKENNUNG?*, Suhrkamp Verlag. 加藤泰史 監訳(2012)『再配分か承認か?』法政大学出版局、pp. 9-10参照。

## ソフトウェア特許FAQ

Q: ソフトウェア特許が創造的な努力を奨励するのでは?

**アイデアと実装の区別の難しさ:** ソフトウェア特許では、アイデアそのものよりもその実装方法が重視される必要があります。しかし、ソフトウェアのアイデアと実装はしばしば密接に結びついており、区別することが難しい場合があります。これにより、ソフトウェア特許が創造的なアイデアを保護するのではなく、既存のアイデアや方法を単に再利用することになる可能性があります。

**技術の進歩の速さ:** ソフトウェア技術は急速に進歩しており、新しいアイデアや方法が頻繁に出現します。ソフトウェア特許の審査や付与には時間がかかるため、特許が付与されるまでには既に技術の進歩が進んでしまうことがあります。その結果、ソフトウェア特許は技術の革新を抑制する要因となる可能性があります。

**非効率な特許訴訟:** ソフトウェア特許はしばしば特許侵害訴訟を引き起こしますが、これには多くの時間とコストがかかります。特許侵害の主張や擁護はしばしば主観的な解釈に依存するため、特許訴訟は争われることが多く、結果として創造的な努力を奨励するより

も破壊的な要素となることがあります。

**オープンなイノベーションの傾向：**現代のソフトウェア開発では、オープンソースやコミュニティベースのイノベーションが重要な役割を果たしています。ソフトウェア特許の存在は、このようなオープンなイノベーションの流れを妨げる可能性があります。ソフトウェア特許が過剰に強力になると、開発者がアイデアを共有し、共同で成長させることが難しくなる可能性があります。

Q: 不正なコピーを防止のために必要では？

**技術的な制約：**ソフトウェアはデジタル形式で存在し、コンピュータ上で実行されます。デジタルデータは容易に複製できるため、コピーの防止は難しいです。一度ソフトウェアがコピーされた場合、それを制御することは困難です。

**ネットワークの無制限なコミュニケーション：**インターネットの普及により、ソフトウェアを簡単に共有できるようになりました。不正なコピーを防ぐためには、ソフトウェアが常にオンラインで監視され、ライセンス認証が行われる必要があります。しかし、このような制御はリソースとコストがかかるため、完全な防止は難しいです。

**クラッキングやリバースエンジニアリング：**不正なコピーを防止するために、ソフトウェアは暗号化やライセンス認証などの保護メカニズムを使用することがあります。しかし、攻撃者はソフトウェアを解析し、保護メカニズムを回避するための手法を開発することができます。クラッキングやリバースエンジニアリングと呼ばれる技術を使って、ソフトウェアのコピー保護を回避することが可能です。

**法的な制約と国際的な問題：**ソフトウェア特許は国によって異なる規制や法律に基づいています。不正なコピーの防止は、異なる国や地域での法的手続きと協力が必要です。国際的な問題や法的な制約が存在するため、全ての不正なコピーを完全に防止することは困難です。

Q: ソフトウェア特許がユーザーに品質と安全性を担保できるのでは？

**特許と品質/安全性の関係：**特許は新規性と非自明性の要件を満たす技術的な発明に対して与えられる権利であり、その技術が品質や安全性の観点から優れているかどうかを保証するものではありません。特許制度は、発明者に一定の期間、その発明を独占的に利用する権利を与えることを目的としています。Amazonのワンクリック特許のように「どうしてもいい技術を法的保護」することによって逆に消費者の利益にならず独占禁止法の目的と矛盾することすらあります。

**個別の特許の範囲：**特許は具体的な技術的な解決策や方法に対して与えられるものであり、ソフトウェア特許も特定のソフトウェアの特定の技術的な側面に関連しています。特許の範囲は非常に具体的で限定的であり、ソフトウェア全体の品質や安全性を保証するものではありません。したがって、特許があるからといって、そのソフトウェアが全体として品質や安全性に優れているとは限りません。

**品質と安全性の評価は複数要素に依存：**ソフトウェアの品質と安全性は、コードの品質、テストの厳密さ、セキュリティ対策、ユーザビリティなど、さまざまな要素に依存します。特許は技術的な発明に対して与えられるものであり、これらの要素を総合的に評価するものではありません。そのため、特許があるからといって、ソフトウェアの品質や安全性が保証されるわけではありません。

**産業の特性：**ソフトウェアは非常に迅速に進化し、改良されるものであり、その品質と安全性も進化し続ける必要があります。特許制度は技術の革新と競争を促進することを目的としており、それによって新たな技術の開発や改善が行われることを立法者は想定しています。したがって、特許制度はソフトウェアの品質と安全性を保証するための最適な手段ではありません。

Q: 特許があれば企業は研究と開発への投資を促進するのでは？

**研究開発の阻害：**ソフトウェア特許制度は、新しいアイデアや技術の開発を阻害する可能性があります。ソフトウェアは比較的迅速に進化し、短期間で新しいアイデアが出現します。しかし、特許審査や訴訟手続きは時間がかかるため、イノベーションのスピードを遅くする可能性があります。

**技術の進歩と相性の悪さ：**ソフトウェア特許制度は、ソフトウェアが他の技術と組み合わせることによって生まれる新しいイノベーションに対応しづらい場合があります。ソフトウェアは他の技術と密接に関連し、相互作用することが多いため、特許制度がソフトウェアの進歩を追いつかせるのは難しいことがあります。

**制度の複雑さとコスト：**ソフトウェア特許を取得するためには、特許出願の手続きや弁護士費用など、複雑で高額なコストがかかります。特に中小企業や個人開発者にとっては、これらの負担が大きい場合があります。そのため、特許制度の導入が研究と開発への投資を減少させる可能性があります。

**既存特許の影響：**ソフトウェア特許制度は、既存の特許によって新しいイノベーションの開発が制約される可能性があります。特許の範囲や有効期限が広く解釈された場合、同じような機能やアイデアを実装することが難しくなります。このような制約があると、研究者や開発者は新しいアイデアを追求するよりも既存の特許に頼ることが増える可能性があります。

Q: 利益をもたらすイノベーションのインセンティブになるのでは？

**特許の対象となるものの曖昧さ：**ソフトウェア特許には、具体的な発明や技術の特定の側面を特定することが困難な場合があります。ソフトウェアはアルゴリズムやプログラムの集合体であり、特許法の要件に合致する明確な発明を特定することが難しいことがあります。このため、特許の有効性や有効範囲に関する不確実性が生じ、ソフトウェア特許が有効なインセンティブとなりにくくなります。

**非特許化の文化と共有の傾向：**ソフトウェア開発者の間では、イノベーションを促進するために知識やコードを共有する文化があります。オープンソースのソフトウェア開発が盛んであり、多くのプログラマーや企業がソフトウェアを共有してコミュニティの発展に貢献しています。このような文化では、特許による知的財産権の保護よりも、共有や相互作用によるイノベーションの価値が重視される傾向があります。共有や相互作用によるイノベーションの価値においては「財産権・自己所有権」の道德直感の普遍的規範化は逆効果になることがあります。

(neural-pavlov)

## 『リバタリアンが社会実験を試みた町の話』

【編集による注釈】

この記事は、Matthew Hongoltz-Hetling (2020) *A Libertarian Walks Into a Bear: The Utopian Plot to Liberate an American Town (And Some Bears)*, PublicAffairs. 上京恵訳(2022)『リバタリアンが社会実験してみた町の話: 自由至上主義者のユートピアは実現できたのか』原書房。の書評である。

~~~~~

ある日、市街地で熊を見かけたでしょう。どうやら食べ物を求めて山を下りてきたようだ。あなたならどうするか。まさか熊と格闘しようなどとは思わないだろう。狩猟するにも資格と許可がいる。たいていは警察か役所に連絡して駆除してもらおうと考えるのではないか。しかし、残念ながら動物の撃退は行政の仕事の範疇を超えているので、基本的には何もしてくれない。結局は地元の猟友会や専門業者が駆除に駆り出され、その手当は税金から支払われることになる。一般市民は獣害において自らの身を守ることもできず、

対策に関しては行政におんぶにだっこの状態なのだ。リバタリアンならこの状況を見てこう憤慨するに違いない。「なぜ自由な狩猟が許されないどころか、それにかかる税金をわれわれが負担しなければならないのか」と。では、彼らならどうするか。

本書の舞台は、アメリカ合衆国北東部に位置するニューハンプシャー州である。ここは1776年のアメリカ独立宣言に先んじて独立を果たした州の一つであり、独自の州憲法を制定した最初の州だった。銃規制は緩く、シートベルトの着用義務はない。固定資産税は高く設定されているものの、売上税や所得税はかからない。伝統的にリバタリアンが多いことで知られている。遡ることおよそ20年、4人のリバタリアンが州西部の町グラフトンに移住し、リバタリアン思想を主流にしたアメリカ初のフリータウンを作ろうと考えた。これがフリータウン・プロジェクトの始まりである。なるほど、「自由な生か、もしくは死」(Live Free or Die)をモットーとするこの州に、フリータウン信者がユートピアの建設を考えたのも不思議ではなからう。しかし、彼らには大きな誤算があった。この町には先住者がいたのだ。そう、熊である。フリータウン・プロジェクトはその表向き魅力的な計画とは裏腹に、当初から窮地に陥っていた。本書では、その顛末が臨場感あふれる文体で描かれている。

事実は小説よりも奇なりとはこのことだ。いったい誰が家のなかで突然熊に襲われようなどと思うだろうか。誰が隣人による熊の餌づけ行為のせいで警察に通報するはめになるなどと考えようか。そして、フリータウン・プロジェクトが最終的にその頭越しに台頭してきたフリーステート・プロジェクトに取って代われようなどと誰が予測したのだろうか。およそ笑い事ではないが、つい失笑してしまうような珍事が次々と起こる。しかし、誰も何も咎めることはできない。なぜなら、すべては「自由」を守るために行ったことなのだから。

リバタリアニズムは魅力的な政治思想だ。急進的だが単純明快でなかなか興味深い論理を備えている。しかし、それはあくまで思想家たちの頭のなかで紡ぎあげられてきた理論に過ぎない。実際にリバタリアンたちが集まってコミュニティを形成し、リバタリアン思想を実践したらどうなるのか。図らずも、フリータウン・プロジェクトのおかげで、まさに一つの町を巻き込んだ社会実験が実現したのである。この本からリバタリアンが得る教訓があるとすれば、自由を求めているのは自分たちだけではないということだろう。実際、フリータウンに住む人々は、程度の差こそあれ皆それぞれ何らかの自由を欲していた(リバタリアンが「国家統制主義者」と糾弾した人々ですら、少なくとも熊からの自由を望んだことだろう)。そしてグラフトンの熊たちもきっとそうに違いない。ある思想にもとづいた政治基盤を整える際に必要なのは、理論体系の堅固さではなく、有象無象を快く迎え入れられる懐の深さなのかもしれない。

(阿奈城なき)

## 訳 コンキンとのインタビュー 2

歴史から理論へ…

Q:多くのリバタリアンたちが、自由を求める青年アメリカ人(YAF)のセントルイス大会中にリバタリアン運動の誕生を捜し求めた。あなたは参加者の一人でしたが、そこで何が起こったのか教えていただけませんか？

SEK3:アメリカ青年にとっての1960年代の主要な課題は、ベトナム戦争と徴兵、ドラッグの合法化、そして異議申し立ての自由だった。リバタリアンは新左翼(例:SDS)とこれらのすべての課題について合意し、YAFを統制した伝統的保守主義者(“伝統派 trads”)に敵対した。YAF初代議長のボブ・シュークマン Bob Schuchman はリバタリアンで、ほとんどの構成員がウィリアム・バックレーと『ナショナル・レビュー』を同一視したにもかかわらず、「青年保守主義者」とは言わず、自由を求める青年アメリカ人と呼称した理由はそのた

めだ。したがって、多くの青年のリバタリアンはYAFに引き寄せられた。1969年初頭に、伝統派は、リバタリアンだけではなく、他の右翼に対するパージを起こした。客観主義者(24)、差別主義者、親ナチ派、ウォレス支持州(25)、そしてローマ・カトリックの急進的伝統主義者 Rad Tradts は、彼らが統制していたすべての場から追放された。東海岸とカリフォルニアでは、そのようなパージは主にリバタリアンの支部が対象であり、セントルイスでの、彼ら自身の信任のための戦いのために全国大会で、伝統派が現れた。伝統派は彼らの「保守主義とリバタリアンな外観」アプローチを終わらせ、約200のリバタリアンの代議員(パージ前は1000人中、おそらく500人はリバタリアンかその他の全国大会事務局の反対者にだっただろう)のみを認可した。私のように、何人かは、忠実な支援者として、後に全米委員長になるデイヴィッド・キーン David Keene (26)によって選出されたが、ローラバッカーとペンシルヴァニアYAF(後のSIL設立者)のドン・エルンスベルガー Don Ernsberger (27)から事情を聞いて、転向した。

(今なお私の親友である)ジェアード・ロブデル Jared Lobdell は重要な徴兵問題への妥協案の構築を模索していた。しかし、彼の委員会報告後のやり取りの間、(20人もいなかったうちの独りの)ロスバード派のアナキストが、自身の徴兵カードのコピーと思われるものに火をつけた。

(投票を先導するデイヴィッド・キーンとジム・ファーレー Jim Farley らの)全国事務局はたやすく勝利し、リバタリアンはYAFから追放された。しかし、州ごとに差異があった。例えば、(当時私の拠点だった)ウィスコンシン州では、親しかったキーンとロブデルによってパージからいくらか保護された。そして、ダナ・ローラバッカーは(キーンが失った)州上院のデイヴィッドの選挙運動のためにウィスコンシンに来たが、実際には、ウィスコンシン大学マディソン校支部を滅亡させた。我々のうち3人が自ら去り、ウィスコンシン大学リバタリアン連合を結成するため、1969年の後半に3人のイッピー(28)が結集した。しかし、数百ではないとしても、北部アメリカ中の大学でこれに類似した話は数十程度だった。どの大学も1970年の秋にリバタリアン連合(あるいはSIL支部)になっていた。その翌年から4年間、2つかより多くの主要なリバタリアン会議が毎年東海岸(ニューヨークかペンシルヴァニア)や、西海岸(ロサンゼルス)であり、すべてが「リバタリアン libertarian (29)」党に先だった。

Q:新しいリバタリアン党の初期の課題の1つに、あなたがデイヴィッド・ノーラン David Nolan (30)と、リバタリアンの理想を裏切る彼を訴えるために、議員への立候補の背後にある道徳的なことについて討論をしました。数か月後にあなたはニューヨークの自由リバタリアン党 Free Libertarian Party に参加したことに着目します。唐突な見解の変化だったのか、あるいは、内部から党を破壊しようとしたのですか？

SEK3: 実のところ、我々の出版物において、早々にそうしたのではない。それは、1972年の、第17号においてであり、NLN(31)をレッセ・フェールの本からつまみ出した。なぜなら、1870年代のライサンダー・スプナー Lysander Spooner (32)とトーマス・ベヤード上院議員 Thomas Bayard (33)のそれを、我々のやりとりと比較することを私は「冒した。」

(カリフォルニアに移住する前に)ニューヨーク・リバタリアン党の初代議長のエド・クラーク Ed Clark (34)は自由リバタリアン党 Free Libertarian Party (35)——と呼ばれるのは、ニューヨーク・自由党 Liberal Party (36)が投票券を混乱させたとして、LPを訴えると脅したからだ——をジェリー・クラスマン Jerry Klasman (37)に引き渡した。ジェリーは自由リバタリアン党の幹部会議に私を招待した。私が党を信じておらず、また党の消滅のために働くと彼に伝えたとき、彼は「ああ、いいよ」と言った。1973年に、私はあらゆる立候補者の中で最多投票をもって再選されたが、他の急進

派の立候補者を議員にすることができなかった。(次点は当時の私のガールフレンドで、後に、一時的に私の初めての婚約者となる、ノナ・アギユラー Nona Aguilar だ。) 1974年までに、「アナルコ・中道派 Anarchocentrist」のマンハッタン・マシーン(38)に対するアップステートの改革主義者との連合で、自由リバタリアン党の統制の勝利を成し得た。我々が(急進派で)最も望んでいなかったことは組織の権力を獲得することで、それゆえに、私と中核を成す数人(私は以下のことを認める、つまり、私の同志のうち数人は権力に留まり、権力のために努力しようと誘惑に駆られた)は、会場に入ることと投票を拒否した。我々は外で座り込み、NLNを売った。

基本的に、私は政党政の内在的矛盾を説明した。私は単に、国家が望んでやることと同じように、リバタリアン党がそれ自体の構造の権威の弱点と分権化の戦術を適用することを要求した。ロスバードとガリー・グリーンバーグ Gary Greenberg (39)は、リバタリアン党が規律ある幹部を有し、組織内での口論(例:ディベートや異議申し立て)の最小化をすべきだと主張する中央集権主義者の先駆けとなった。あまりにも奇妙だが、私のアプローチは、彼らのレーニンの戦術よりもリバタリアンたちに訴えかけたと思えた。

マレー・ロスバードはもはや制御できない混沌を苛立ちながら眺め、彼は会場の開かれたドアを通して私に指さしてこう言った。「彼はここで何が起きているのかを理解できる唯一の人なのか？」

自由リバタリアン党を去る前に、我々はダラス全国大会への代議員資格を獲得していた。というのも、我々はそこで戦術を試すのを決めたからだ。我が急進派代議員とエリック・スコット・ロイス Eric Scott Royce (40)の代議員(我々は改革派と呼んだ)が、ノーランのマシーンに対抗するために連合した。だが、ノーランは既にエド・クレーン Ed Crane (41)の制御を逸していた。クレーンは容易に勝利した。その時点で、(2人の裏切者を除いた)急進派はリバタリアン党から未来永劫離れ、数人の改革派を引きつれた。その中には、本日、私の出版物のために書いているロイスも含まれていた。

Q:1971年に、あなたがミルトン・フリードマン Milton Friedman (42)との論争を行う間、「自由共謀コロムビア・リバタリアン会議 Freedom Conspiracy's Columbia Conference」の共同代表でした。論争を行った理由は何ですか？

SEK3:ミルトンおじさん(43)は書面上でいくつか質問を受け付けた。なので、私はカードに書いた。1. あなたは所得税の源泉徴収の成立に何か関係していたのか？2. もしそうなら後悔するか？3. もしそうなら、同じことを繰り返すか？

驚いたことに(そしてここでは彼を誉めよう)、彼はカードを読み、単刀直入に回答した。彼が意見を表明するのに驚いた(彼は明らかに保守主義者であり発展途中の急進的リバタリアンではなかった。)フリードマンは以下のように回答した…

1. はい、私がアイデアを提案したとき第二次世界大戦の最中でした。戦費調達のために、より早く国家に貨幣を集めるためのものでした。2. いいえ、後悔していません。戦争で正当化されるためです。3. はい、同じ理由によって、繰り返すでしょう。

フリードマンはその後意見聴取のについて、ほぼ全員を混乱させた。そして、フリードマン主義は1971年のリバタリアン運動 Movement の善性によって粉砕された。ルートヴィッヒ・フォン・ミーゼスと彼の門下生であるマレー・ロスバード、そしてオーストリア学派は今日まで揺ぎ無く君臨している。

Q:その会議以降、多くのリバタリアンは、リバタリアンの理念と両立するのが不可能なシカゴ学派(44)や新古典派経済学(45)をししばしば拒絶します。その学派と提携する幾人かは、いまだにアナキストです(例:デイヴィッド・フリードマン David Friedman (46)、ブライアン・キャプラン Bryan Caplan (47)。)彼らが存在するのはやや厳しすぎるのではないのでしょうか？

SEK3:NO。シカゴ学派の経済学者が単純に国家に寄与する効率性の専

門家だと、ロスバードは立証した。最悪のケースは、アウグスト・ピノチェト(48)に仕えるチリの「シカゴ・ボーイズ」と、革命的シオニスト(つまりファシスト)のメナヘム・ベギン Menachem Begin (49)のために働くイスラエルのボーイズだ。

Q:あなたが1970年代にニューヨークに住んでいたとき、ロスバード夫妻の家に毎晩議論に行く理由はありましたか？

SEK3:実際、非常に楽しかった。運動 Movement が「マレー・ロスバードの居室」から既に拡大していたにもかかわらず、いまだに、初期の運動 Movement で、最も「中枢の」場だった。

Q:我々が知るように、ロスバードの本質はやや乱暴で、彼はリバタリアン運動 movement の分裂の原因となった多くのことを述べた。彼との協力にはどのようなものがありましたか？

SEK3:実際、ロスバードは個人的な仲違いについて責任があることはめったになかった。彼はかなり物腰柔らかい人だった。彼の話し方は、私がNLNで書いたが、ウッディ・アレン Woody Allen (50)のようだが、経済学者の傾向もあった。(ところで、アレンは自由市場ではないタイプのアナキストだ。)当初、私が参加するまで、彼はひどくリバタリアン党への参加を拒否した。私は、ルフェーブルの政治に対する原理的な攻撃に多く依拠した。ロスバードは以前、反政治的なエッセイを書いており、フラン・ヤングスティンの選挙運動の間、彼がリバタリアン党を受け入れたことに私は驚いた。もしかすると、若い専門家、特にフランや彼女の友人のような活動的な女性を迎える新たな方法を彼は思いついたのかもしれない。(ヤングスティンはIBMに勤めていた。)当時、いわば、ランドとブランデン(51)、ルフェーブルとサイ・レオン Sy Leon (52)、あるいはガンボスとジェイ・スネルソン Jay Snelson (53)のような個人間のいざごは起きなかったが、私はイデオロギー的に分裂した。ロスバードは個人崇拜が生み出されることに積極的に反対した。私が依頼すると、彼は書き続けてくれて、[エド・]クラークの破滅的選挙運動後の1980年に、反コクトパス Kochtopus 同盟で一致した。クレーンがケイトー研究所 Cato Insitute (54)でマレーの株を抜きぬいて事実上追放したとき、『ニュー・リバタリアン・マガジン』の株を彼に提供することで、私は彼を支援した。また、私が以前述べたように、1985年にアゴリスト・インスチチュートの初代アドバイザーになった。

我々は1990年の選挙ですぐに一致した(彼は1988年にリバタリアン党と永久的に断絶しており、新しいパレオ・コンサバティブ Paleoconservative (55)同盟を遂行していた。)が、1992年から1995年に彼が亡くなるまで絶縁状態になった。

Q:晩年のロスバードはリバタリアン運動 Libertarian movement だけでなく、リバタリアン理論 Libertarian theory そのものを放棄した主張する人たちがいます。あなたは転向していないと思いますか？

SEK3:マレー・ニュートン・ロスバード博士はいつも、戦略と戦術の両方に関して、最大限の許容範囲を認めた一方で、彼が正統なリバタリアニズムの「垂直線」と呼ぶものを切り倒していた。パレオ・コンサバティブと「パレオリバタリアン(56)」から彼の青年期のオールド・ライト Old Right (57)連合を再構成する努力に人生を費やしたのは事実だが、彼はリバタリアンの諸原理について何の根拠もないと主張した。1950年にアナーキーの受容から、1957年に『ナショナル・レビュー』から彼が追放されるまで、彼は右翼の一派だった。彼は主に左翼によって行われた反原子力人民戦線に参加したため追放され、共産主義(邪悪でそれは…大きな政府だから)と戦うのに不可欠なように、大きな政府を受け入れた反帝国主義の「新右翼」を非難した。彼自身は無神論者だったにもかかわらず、彼は、プロテスタント的なキリスト教の信仰を[アイン・ランドが]彼の妻に辞めさせるよう圧力をかけるのを断ったため、客観主義者から追放さ

れた。

彼は1960年代の間、熱意をもって新左翼とうまくやり、アナキストたちがSDSやすべての重要な組織から追放され、毛沢東主義者とスターリン主義者の変異体が小さなグループの統制をめぐって戦うようになったことが明らかになったとき、新左翼から去った。彼はリベラル・リパブリカン（通常リバタリアンと保守主義者の両方から嫌われている）であるマーク・ハットフィールド Mark Hatfield (58)が1972年の選挙で出馬を取りやめるまで、支援を検討した。彼はそれまで優先的に反戦的な民主党と共闘していたにもかかわらず、彼はマクガヴァン以上にニクソンを支持するのをやめた。

彼はリバタリアン党をその設立時から反対したが、それは主に戦略的理由からだ。彼はリバタリアン党を運動史のこの段階において「時期尚早」と考えた。彼の多くの活動家の友人たちの中には、党の表面的な通俗性を見た後に、彼が党を受け入れたとき、彼はリバタリアン党への考えに基づいて党を形成しようとした。レーニン主義的な厳しい規律のある幹部モデルによってだ。その方法はリバタリアン党（と当然党の外部にいる多くの人々）の90%にとってパツとしないもので、（後に失うが）1988年に彼の立候補が拒否されたとき、彼はパレオ・コンサバティブを組織したトム・フレーミング Tom Flaming を歓待し、彼と親友になった。これは1992年にパット・ブキャナン Pat Buchanan が党の立候補の経済アドバイザーになったときまで続いた。彼は1996年の選挙前に亡くなり、ロスバード亡き後、ブキャナンは堅硬な保護主義経済と、ほとんど社会主義者（黒人・女性）の仲間たちを捨てた。

Q：1975年、3週間の旅行のあと、あなたはニューヨークからカリフォルニアに移住することを決めました。旅行中に広まった数々の伝説があります。どのようなものか教えていただけませんか？

SEK3：率直に言うと、ジャック・ケロック Jack Kerouac (59)の話で、なんでもありだった。我々4人と我々が持ち出せた物は、トヨタ車に詰め込んだ。私はドライブが好きではなく、オレゴンに到着したとき（このとき一直線ではなかった）他のメンバーはとても疲れていたの、私が帰るべきだという意見にみんな賛同した。約3時間オレゴンの広大な長さを横切り、彼らはもう二度とドライブをしないと私に言った。

我々は初めてのリバーコン Rivercon（SF大会）の地であるケンタッキー州のルイスヴィレに止まり、オレゴン州のポートランドでリバタリアンSFファンのリチャード・E・ゲイズ Richard E. Geis (60)のところに訪れた。我々はマーリン郡で迷子になり、最も朦朧とした時間だった（完全に小説や映画、シリアル・キラーのようだった）。そして、広大な西海岸から、ダナ・ローラバッカーが我々に見繕ってくれた集合住宅のあるロサンゼルスへ向かった。

我々の総意として、もう二度とそこへ行かないと決心したが、通過儀礼として思い出させる。少なくとも私にとって60年代的精神から断つ時であり、最終的には、1975年から1990年にベルリンの壁が崩壊するまでの間、長きにわたる不定形の時代への突入だった。

Q：西海岸へ到着後、あなたはアナルコ・ヴィレッジと呼ばれる場へ複数人の集団で向かいました。その名前に何が隠されているのか教えてもらえますか？

SEK3：異なる人々は異なる焦点を持つ。第一に、『ニュー・リバタリアン』を毎週発行するために（ああ、君がそう聞いたのは正しい、毎週忌々しくも、101の議題のうち2つを除いてだ）1975年12月から1978年2月までの間、「労働資源」としてだ。10の集合住宅と1つの一軒家があり、ピーク時には、集合住宅の8つを我々が持ち、一軒家をリバタリアンたちが占拠していた。2人の保守主義のSFライターもまたそこに住んでおり、一人は我々と議論をするために移り住んだ。SFを執筆するためにそこを保持した古老のクエーカー教徒のSDS活動家は、我々が移住したことを発見し、我々に加わった。

その集合住宅に女性はひとりもいなかったが、何人かは足繁く訪

れ、別の何人かは異なる男性たちと移住し、そのようなことが時折続いた。特にある一人は、立ち去る前に我々の90%と事を成した。

また、ゲイっぽい人もいた。数年間事実を知られなかったにもかかわらずだ（上述のように、最も乱交的な女性が彼のことを暴露した。）彼は集合住宅の管理人で、我々に集合住宅を与えた張本人であるダナ・ローラバッカーの友人だった。

Q：現代的なリバタリアニズムはカウンター・カルチャーに対して非常にルーズに結びついているように見えます。常にそうではない何かしらのことを私に教えてください。

SEK3：ふうむ。いい答え方がないな。私が教えることができる限り、カウンター・カルチャー Counter-Culture に帰するものは、ほとんど広範にリバタリアンだ。最新のサイバー・スペースオタクの「オルタナティブ・カルチャー」はリバタリアンではなく、徹底的なアゴリストだ。ヒッピーのカウンター・カルチャー counter-culture はリバタリアンの原理を認知しておらず（『退廃の礼賛 *In Praise of Decadence*』のジェフ・リッゲンバック Jeff Rigenbach (61)を見よ）、最初の良心的な「左翼リバタリアン」であろう（「リベラル・イノベーター」の編集者である）ケリー・ソーンリー Kerry Wendell Thornely (62)から、筋金入りの右翼のダナ・ローラバッカーに至るリバタリアン活動家は、ヒッピー・カウンター・カルチャーを好んで受け入れた。もう1つの有名なオルタナティブ・カルチャーである、SFファンダムは（ハインライン、アンダーソンの）認知されていないリバタリアニズムから、露骨にそれを受け入れたり支配的すぎるとして批判したりすることへ移り変わっていった。

もしかするときみは、現代のリバタリアン運動 Libertarian Movement が全面的にカウンター・カルチャー counter-culture ではなく、昔はよりそうだったということを含意しているのかい？実際それは、（ロスバードや君が想像できるようなまともな人 straight のような）現在の文化を広く受け入れる人々と、代替的な提案が相当拡大しているにもかかわらず、諸代替案を受け入れる人々とよく似た分断だ。どちらかと言えば、私は以下のように言うだろう。前支配的文化の拒否は、1960年代のそれよりも大きくなったが、はっきりとはしていない。企業勤めのスーツ姿の男（と今は女）が、麻薬を吸いに帰宅し、反体制分子とオンラインチャットをし、週末に「オルタナティブ・ライフスタイル」大会を開いたり、ボタンがつけられた黒旗を見るためにスーツの襟を折り返すのは、普通のことだ。この「両方の方法をスイングする」態度は明らかに、ポスト60年代代的であり、若い世代にとって全く普通のことだ。

次回、「理論から実践へ…」

（前川範行）

### 注釈

(24) 客観主義とは、アイン・ランドの思想体系。アカデミズムでは無視ないし軽視されているが、アメリカのオールド・ライト、保守主義、リバタリアニズム運動の原動力の1つとなった。

(25) 原語は Wallcities。ジョージ・ウォレス George Wallace は、1968年にアメリカ独立党から大統領選挙に立候補し（※副大統領候補はカーチス・ルメイ）、南部5州（アラバマ、アーカンソー、ジョージア、ルイジアナ、ミシシッピ）の選挙人を確保した。よって、この5州を Wallcities と比定した。なお、アメリカ独立党は反共・ポピュリズム・白人至上主義的であると理解されている。

(26) David Arthur Keene は元全米ライフル協会会長、元大統領顧問、元YAF全国委員長。

(27) Don Ernsberger は個人の自由協会(19)の創設者の一人。1989年にリバタリアン党全国大会Libertarian Party National Convention に関与。なお、この大会で、リバタリアン党全国委員会 Libertarian Party National Committee のメンバーを決定する。

(28) 原語ではYIPpies。イッピーとは、1960年代後半のアメリカで反

体制的な若者のことを指す。

(29)リバタリアンの文脈で、Libertarian と大文字で始まる場合はリバタリアン党支持のリバタリアンを、libertarian と小文字で始まる場合はリバタリアン思想を支持するリバタリアンを指す。よって、前回の内容で「大文字のLを獲得した」とは、リバタリアン黨員だった、ということの意味する。

(30)David Fraser Nolan はリバタリアン党の創設者。ポリティカルコンパスの1種であるノーラン・チャートを選挙運動で使ったことで知られる。

(31)New Libertarian Notes は1970年から1990年まで出版された、コンキンが発刊していたジャーナル。

(32)Lysander Spooner は19世紀アメリカの個人主義的無政府主義者。自然権論者であり、奴隷制度廃止論者でもある。後に生まれるアメリカのリバタリアンに多大なる影響を与えた。

(33)Thomas Bayard は19世紀アメリカの上院議員 (民主党・デラウェア州)

(34)Edward E. Clark はアメリカの政治家、リバタリアン。1980年にリバタリアン党から大統領候補として出馬した。

(35)自由リバタリアン党 Free Libertarian Party は現在のニューヨーク・リバタリアン党の前身政党。

(36)ニューヨーク自由党はアメリカの政党の1つ。フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領を支持していた。

(37)Jerome Joseph "Jerry" Klasman は20世紀アメリカのリバタリアンで、自由リバタリアン党の創設者の一人。

(38)アメリカの政治でマシーン machine とは、集票組織を指す。つまり、ここでは、マンハッタンにあるアナルコ・中道派から成る集票組織のこと。なお、マンハッタンはニューヨーク市に位置し、アップステート・ニューヨークは、ニューヨーク州のうちニューヨーク市とロングアイランドを除いた地域を指す。

(39)Gary Greenberg はアメリカのリバタリアンで、自由リバタリアン党創設者の一人。

(40)Eric Scott Royce は議員の投票記録によってとの整合性を計測する採点システムである、エリック議会報告書で知られる。

(41)Edward Harrison Crane はケイトー研究所の創設者の一人。リバタリアン党でも精力的に活動した。

(42)Milton Friedman はアメリカの経済学者、シカゴ学派(44)の重鎮。David friedman (47)の親。

(43)原文は Uncle Milton 。David と呼び分けるためか、単にコンキンがミルトンに対して親しみがあつたのかは不明。

(44)シカゴ学派は、アメリカのシカゴ大学を拠点とした、新古典派経済学。公共選択理論や法と経済学のような諸分野に広く影響力をもたらしている。

(45)新古典派は、商品やサービスの生産、消費、評価 (価格設定) を需要と供給のモデルによって観察する学派。

(46)ウッディ・アレンはアメリカの映画監督・俳優。

(47)David Friedman はアメリカのリバタリアン経済学者、政治哲学者。親の Milton と異なり、無政府資本主義を帰結主義的に擁護している。息子のパトリ Patri も無政府資本主義者であり、公海上にリバタリアンの共同体であるシーステッド Seastead を構築する活動家でもある。

(48)Bryan Douglas Caplan はアメリカの経済学者。行動経済学、公共選択理論が専攻。

(49)Augusto José Ramón Pinochet Ugarte はチリ共和国の第30代大統領。1973年にクーデターによって独裁政権を敷いた。

(50)Menachem Begin はイスラエルの第6代首相。彼の任期中に、(イスラエルによる)イラクの原子炉攻撃や、レバノン侵攻があつた。

(51)Nathaniel Branden はアイン・ランドの (元) 愛人、作家。彼女の客観主義の構築・流布に大いに貢献があつた。

(52)Sy Leon はリバタリアン活動家。ルフューブルとともに、ラン

パート大学を運営していた。

(53)Jay Snelson はリバタリアン活動家で、ガランボスが設立した自由企業研究所 Free Enterprise Insitute に所属していた。

(54)Cato Institute はアメリカのリバタリアン・シンクタンク。ロスバード、クレーン、ヨークらによって設立された。現在でもアメリカ有数のシンクタンクの1つ。

(55)Paleoconservative はネオ・コンサバティブ Neoconservative に対峙する存在で、孤立主義を採用する。

(56)Paleolibertarian はマレー・ロスバードとルー・ロックウェルらによって始まったリバタリアンの運動の1つで、パレオ・コンサバティブとパレオ同盟 Paleo alliance を構築した。また、文化面で保守的 (伝統的) だった。

(57)Old Right はアメリカの政治思想・政治運動の1つで、ニューディール政策以前の右派的思想を保持していた。アメリカでのリバタリアニズム思想・運動のルーツの1つとなる。

(58)Mark Odom Hatfield は元合衆国上院議員 (共和党・オレゴン州)。

(59)Jack Kerouac はビート・ジェネレーション Beat Generation (第二次世界大戦後のアメリカ合衆国の文学界で異彩を放ったグループ、あるいはその活動の総称) を代表する作家・活動家。

(60)Richard E. Geis はアメリカのSF愛好家・作家。100冊以上の著作を生涯で成した。

(61)ジェフ・リッゲンバッハは、リバタリアン作家である。

*In Praise of Decadence* は、1960年代アメリカのリバタリアン運動についての作品。

(62)Kerry Wendell Thornely は、20世紀アメリカの作家。

## 訳「リバタリアン左派運動入門」

### 【訳者による注釈】

この記事は、サミュエル・エドワード・コンキン3世によって書かれた Movement of the Libertarian Left に掲載された、“Introducing the MOVEMENT OF THE LIBERTARIAN LEFT” という記事の翻訳である。

なお、原文は[https://agorism.eu.org/docs/Introducing\\_the\\_MLL.pdf](https://agorism.eu.org/docs/Introducing_the_MLL.pdf)より閲覧可能。

~~~~~

### 自己紹介

リバタリアン左派運動は、急進的なコミットメントのための幅広いリバタリアン運動の一部として組織される。ほとんどのリバタリアングループは教育志向である。一方で、MLL [ Movement of the Libertarian Left ] は活動志向だ。それゆえ、教育や「ビジネス」を基礎にするその他のリバタリアングループとは、細胞・戦術・戦略の基礎によって組織されている点で異なる。MLLは——政治的「リバタリアン Libertarian」組織とは違って——目的や手段に対して妥協しない。

### 「リバタリアン Libertarian」とは？

この問題に対するあまりにも多くの文献は現在存在し、また、この巨大で複雑にもかかわらず、「リバタリアニズム」と呼ばれる人間関係の原理的な理解のある何かしらの問いに対して、我々は喜んで答えるだろう。

最初に一瞥したとき複雑だと感じるように、リバタリアニズムはある驚くべき単純な前提に依拠する。個人の自由に妥協なくコミットすることだ！これはしばしば「非侵害原則」として論理的に正確に述べられる。つまり、

**何人も他者の生命や財産に対して、暴力や強制 (暴力の脅し) を起こす権利はない。**

リバタリアニズムの複雑さは、人間行為のほぼすべての面に対す

るこの原理の適用可能性に由来する。リバタリアニズムの有効性はこの単一で、把握が容易で、最優先の規則にから生じ、また、リバタリアニズムの倫理的徳は以下について何も言わないことにある。それは、あなた自身の人生の個人的行為と、あなた自身の財産の処理についてだ。

### なぜ「左派リバタリアン」か？

MLLは左翼の内部でもあり外部でもある。初期の政治期から「左翼」は「反エスタブリッシュメント」を意味していた。一貫したリバタリアンは国家と、国家に寄生する階級である官僚・政治家・補助金を得たビジネスマン・特権を得た労働指導者・軍事的な大衆殺戮者の廃止を願っていた。ほとんどの政治的語彙において、これは我々を左翼に追いやる。それはアナキスト的だからであり、それは我々を極左に位置づける。

いまだに、我々はリバタリアン左派であり、「社会主義」左派ではない。その現在の支持者の規模に関して、社会主義は用語としての左翼を決して独占していないし、しばしば、すべての反エスタブリッシュメントの抵抗運動の少数派だった。今日、**社会民主主義と共産主義は世界中の大部分の国々のエスタブリッシュメントである**。MLLはすべての国家に反対する。たとえ国家の支配者が自身を（自己矛盾にも）左翼主義者と呼称したとしてもだ。共同体や、労働者（やどんな人々）と結合して生きることを願う人々が、リバタリアン社会でそうすることは自由だ。MLLは経済的に自由市場の主張に立ち、急進的な社会主義者やファシストのように見えるウルトラ・保守主義を構築するほど自由だ。

対外的に、リバタリアン左派のために戦い、内面的にリバタリアン運動の急進化のために戦う。我々は妥協しないアゴリスト——平和的交換と、我々の目標を達成するための自発的交流のみを利用する存在——だ。現在のリバタリアン運動の多くは墮落して、妥協的で、保守主義で、選挙的で、臆病なので腐敗している。MLLは無慈悲にも、政治家を選ぶための政治を廃止し、官僚制を廃止するための官僚を任命し、政府を廃止するために統治する詐欺的な提案をあらわにする。自由市場の独占を試み、アナーキーにおいてエスタブリッシュメントを作り出し、政治的な似非行為によって我々の活動を弱体化させる人々に対して、我々にはありとあらゆる手段をもって戦う。

要約すると、我々はリバタリアンで影響的な左派と、リバタリアン左翼を創設するよう従事する。したがって、**我々はリバタリアン左派の運動体である**。

### 我々の目標は？

手短かに言うと、具体的に、MLLは他の左派とリバタリアングループとともに特定の目標に取り組んでいる。あなたはあなた自身の計画に取り組み、他のMLL活動家に従うよう判断することもできる。あなたは戦術的なユニット（細胞）の中で他のMLLの活動家とともに働き、協力のために1つかより多くの戦術家を受け入れることができる。細胞は地域の戦略家と地域での協力のために提携することができる。大陸的戦略はサミュエル・エドワード・コンキン3世によって、『ニュー・リバタリアン・マニフェスト』に綿密に計画された。

党路線はない。不一致は常に「認められる。」それは、誰かが何らかの提案された計画を拒否し、新しいものを提案することだ。戦略家と戦術家は自身のサービスを売り、最後に売れたときのみ価値がある。指導者はいない。活動の自由は理論における自由から生じる。

中期的に、MLLは、（しばしば「グレー」「ブラック」と呼ばれる地下自由経済である）カウンター・エコノミーの擁護者としてのニュー・リバタリアン・アライアンス（革命のアゴリスト組織）を作っている。各個人が国家主義社会から離脱し、カウンター・エコノミックに向かうほど、国家は「衰退する。」MLLは今ある前アゴリスト組織と革命のアゴリスト組織の接続点だ。中期とは20年以内を指す。

長期的には、カウンター・エコノミー(1)は、最小限の自己防衛が必要な自発的關係に基づいた社会を生み出すために、国家資本主義

と国家社会主義を転覆する。また、そのような社会は、通常の市場便益によって処理可能である。この財と価値の自由交換社会はアゴラ(2)である。

政治の死は正当化された強制（国家）の独占を排除する。つまり、国家なき社会はアナーキーである。

我々の長期的な政治的・経済的目標は以下のスローガンに要約される。

### アゴラ・アナーキー・アクション！

我々が各人の自由を最大化する間、我々は国家とその特権階級に反抗するすべての人々の仲間である。これがレジスタンスのあるべき状態ではないだろうか。我々に加わろう！

### 推薦図書

#### 理論

マレー・N・ロスバード『権力と市場』

#### 戦略

サミュエル・エドワード・コンキン3世『ニュー・リバタリアン・マニフェスト』

#### 見取り図

J. ネイル・シュルマン『夜とともに』

この小冊子は本来、故・サミュエル・エドワード・コンキン3世によってMLLのために書かれ、出版された。この新版は、ワリー・コンガー Wally Conger によって最小限更新され、編集されている。

（訳：前川範行）

### 注釈

(1)counter-economy はコンキンが発案した概念。国家的な経済システムである establishment-economy に対置する概念で、主に国家を回避した経済を指す。

(2)agora はコンキンが好んだ使った用語・概念。古代ギリシャの市場であるアゴラに由来する。

## ユートピア 4:婚姻制度廃止

リバタリアンな社会がどのようなものを想像できなければ、リバタリアニズムに賛同することは難しいだろう。従って、本稿では理論よりも、リバタリアンな社会に存在し得る社会（小市場）の記述に重点を置く。「もしかしたら、こういう社会もあるかもしれない」程度に考えていただければ幸いである。

本稿では婚姻制度について想像する。

リバタリアンは婚姻制度に反対する。第一に、国家による婚姻制度は税金によって維持されているので、自己所有権に反する。第二に、国家が、特定の価値（異性愛的一夫一妻関係）を承認し、特権（法的権利）を付与することは恣意的な介入だからこれも許容できない。異性愛を、同性愛や友愛、複数人の連帯に対して優遇する理由はない。従って、リバタリアンな社会では、婚姻制度は存在しない。

### 個人間の関係

では、リバタリアンな社会では、皆がバラバラの原子的個人(1)として生活するのだろうか？そうとは限らない。現に事実婚という言葉があるように、法律婚でなくとも、人々は自由に共同生活を送っている。リバタリアンな社会では、現行法と違って、同居義務はない(2)。異性愛の夫婦もいるだろうし、同性愛の家族も、一夫多妻、多夫一妻、複数婚、その他様々な形態の家族がいるだろう。もっと言えば、親愛の意味での「兄弟」や「姉妹」、「ファミリー」や、ヤ



クザ的な「ファミリー」「兄弟」も、我々「日本人」もある意味家族である。

「いやいや、それじゃ家族の意味がないじゃないか！」では、結婚の意味とはなんだろうか？子供を産み育てることだろうか？精神的・肉体的な結合だろうか(3)？税制優遇だろうか？別に、全ての法的夫婦が子供を育てているわけでも、愛し合っているわけでも、性行為をするわけでもない。もちろん、損得勘定（税制優遇）に基づくわけでもない。反対に、育児や精神的安心、肉体的快樂、金銭のために結婚している人もいるだろう。一般化して言えば、「私たちは家族だ」と考えていることが家族の条件と言えるかもしれない——恋人や友人関係が「私たちは恋人だ」「私たちは友人だ」という合意のみで成り立っているのと同様に。リバタリアンな社会では、**連帯関係の意味・目的は各自に委ねられる。**

では、市場において家族的連帯は無価値なのか？そんなことはない。人々が「家族」に価値を見出す限り、その人々にとって**価値がある**。現行制度下でも、民間のサブスクリプション・サービスや各種保険などの分野で、いわゆる「家族割引」が提供されている。リバタリアン社会では、血縁関係や婚姻関係を重視する「家族割引」と、より制約の少ない「友人割引」や「恋人割引」「複数人割引」サービスは競合するだろう。これらのサービスの内容は、需要と供給によって決定される。そもそも、これらの民間サービスに依拠する必要すらなく、自分達の価値は自分たちで（主観的に）決められる点に注意されたい。

もしサービス提供者が、いわゆる「伝統的家族」を重視するなら、消費者に血縁関係を証明する書類の提出を求め、割引を実施することができる。その認証は相対的にコストがかかるので比較的高くつくかもしれないし、サービスの共有を防ぐことで企業は利益を得るかもしれない。一方で貧乏な学生は、より自由度の高い「友人割引」を好むだろう。観覧車やデートスポットでは「恋人割引」の特別感が好まれるだろう。「恋人割引」サービスの提供者は、異性愛関係のみを対象とすることもできるし、同性愛関係を対象にすることもできる。

おそらく「恋人を独占したい！」「束縛したい！」という需要が存在するだろう——それが自由の観念と両立するかはともかく。この人は現在と同様に、恋人とカレンダーや位置情報を共有することができる。2人の愛を証明する愛の試練サービスが現れるかもしれないし、神社・教会・ブライダル企業が民間婚姻サービスや、きらびやかな披露宴サービスを提供するかもしれない。

#### 夫婦同姓と夫婦別姓を超えて

婚姻制度におけるもう一つの重要な論点として「夫婦同姓」の問題がある。リバタリアンな社会では、**戸籍制度や住民票、マイナンバーなどは存在しないので、各個人は自由に自分の名前を変更することができる(4)**。従って、「夫婦別姓」どころか「夫婦創姓」も可能である。

もっとも名前は、それまで培ってきた信頼や実績が伴っているだろうから、安易に変えられるものではないだろう。各人は企業と契約して、個人IDなりマイナンバーを発行するかもしれない。ネット社会に生きる我々は、普段から様々な名前を使い分けて生活しているので、名前の同一性など些細な問題かもしれない。むしろ、現行制度下においても、あだ名や芸名、ペンネームは知っているけど「本名」は知らない、といったことはザラである。しかも我々は、ネットで物を買う時、相手の名前を知らずに購入している。実際のところ、ブラックマーケットにおいては、消費者は相手の名前すらも知らずに日常的な取引を行なっている。これは、口コミなどの情報によって、安全性が推定されるからである——商売では信頼が大事なのだ。匿名契約の技術はさらに発展していくだろう。

#### 子供の権利

次に、子供の立場はどうなるだろうか？リバタリアンな社会——あるいは自己所有権——には**親権なるものは存在せず、親は扶養義**

**務を負わない(5)**。ただ、基本的には、親は子供を扶養するだろう。現行制度下においても「親権があるから」子供を扶養している、という親は少ないと思われる。

もっとも、リバタリアンは性善説に立つわけではない。子供を売買する親や、放置する親、稼ぎ頭としてみなす親もいるだろう(6)。世の中には、子供を扶養するだけの金銭的・精神的余裕のない親が存在する。そのような親から、金銭的・精神的余裕のある親の元へと子供が移転されるならば、子供は虐待や死を免れ得る——有償の里親制度と言える。自己所有権者であることを宣言した子供は、自身を放置する親を見限って、自分で保護者を選定することもできる。児童労働が法的に禁止されていないので、子供は親の保護下から逃れて、自分で仕事を探すことも出来る。

リバタリアンな社会では、義務教育は存在しない(7)。子供に画一的なカリキュラムを押し付けることもなければ、子供は監獄のような学校に通う必要はない。家庭教師や塾、フリースクールなどが代替するだろう。児童労働が禁止されていないので、仕事の現場で技術を習得することも可能である。

子供を「不良」だとか「不健全」、「引きこもり」と見做し、保護しようとする現行制度は自己所有権に反する(8)。子供たちは、学校や家庭、その他の環境から逃げだしている。子供たちがその環境を良しとしていないのは、逃げ出したという事実からも明らかだ。それに対し、政府は子供を「保護」、「更生」と称して、子供にとって地獄のような環境に送り返そうとする。なぜか？政府にとって、子供は「福祉」のための社会的リソース（将来的な労働力）でしかないからだ——旧優生保護法を想起せよ。

親が子供の不登校の意思を尊重することや、「社会性」を身につけさせないことは「虐待」と呼ばれる。政府は「適切な教育がなされていない」として「子供を保護する」と脅迫する。子と離れたくない親は、子供の意思を抑圧し、無理やり学校へ行かせることとなる。子供は学校で嫌な思いをし、政府から自分を保護しない親への信頼を失う——親子の関係は政府に破壊される。このように、政府は反社会的活動を行う集団である。リバタリアンな社会には、幸いにして、このような政府は存在しない。

#### 生殖技術について

近年、生殖技術によって生まれた子供について、親権の帰属が問題になっている。ここでも自己所有権は大いに役立つ。生殖技術によって子供が生まれる前に、当事者が契約を結べば済む話である。生まれた子供が、血縁上の親を「知る権利」も問題になっている。もちろん、そのような権利は存在しない。

#### 注釈

(1)リバタリアンに対する批判の一つに「リバタリアンの人間像は原子的個人を想定している」というものがある。しかし、リバタリアンはいかなる人間像も想定していない。ロスバード曰く「しかし、個人が孤立した原子であると考えるリバタリアンは、これまでに一人もいなかった。反対に、あらゆるリバタリアンは、社会で生きることおよび社会的分業に参加することに、必要性和大きな便宜を認めてきた。」Murray N. Rothbard (1998, 初版1982), *The Ethics of Liberty*, New York University Press. 森村進ほか訳(2003)『自由の倫理学』勁草書房、p. 222。

批判に対して私はこう答えよう「仮に原子だったとして、原子は結合して分子にでも化合物にでもなれるのだから、それでいいじゃないか。」

(2)民法732-736条の禁止規定や、750条の夫婦同姓、752条の同居、協力及び扶助の義務や、その他諸々の家族法はリバタリアン社会に存在しないか、少なくとも一般的なルールではないだろう。

(3)裁判所は「思うに、婚姻の本質は、両性が永続的な精神的及び肉体的結合を目的として真摯な意思をもって共同生活を営むことにある…」と価値判断を行う。最高裁昭和61年(オ)10 第260号同62年9月

2日大法廷判決・民集41巻6号1423頁参照。裁判所HP「裁判所判例結果詳細」[https://www.courts.go.jp/app/files/hanrei\\_jp/213/055213\\_hanrei.pdf](https://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/213/055213_hanrei.pdf)、2023/06/14確認。これは、近年の同性婚訴訟(札幌地裁の判決)でも維持されている。しかし、私見では「婚姻の本質」なるものは存在せず、個人間の連帯の目的は各人に委ねられるべきだと考える。

(4)古典的自由主義の哲学者である森村進曰く「実際私はかつて夫婦別姓問題に関連して『各個人は自分の姓を自由に変えられるべきだ』というリバタリアンな主張を新聞紙上に発行した……。」森村進

(2001)『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、p.6。森村氏は、姓を殊更重視しているのではなく、同書で「……もっと根本的に、婚姻という制度を法的には廃止すべきである」(p.161)と述べている点に注意。

(5)ロスバード曰く「我々の理論を親と子供に適用すると、親はその子供に対して侵害を加える権利を持たないが、また親はその子供に食糧や衣服や教育を与える法的な責務も持たない、ということになる」前掲(1)、p.118。

(6)前掲(1)、pp.122-124参照。

(7)Murray N. Rothbard (1999) *Education - Free & Compulsory*, The Ludwig von Mises Institute. 岩倉達也訳(2018)デザインエッグ社。も参照されたい。

(8)前掲(1)、pp.124-131も参照されたい。

## SFLイベントレポート： アイン・ランドとリバタリアニズム

本記事は、2023年6月15日SFL Japanの第2回ウェビナー『Introduction to Ayn Rand and Libertarianism アイン・ランドの紹介とリバタリアニズム』の内容を振り返りつつ、アイン・ランドとSFLの関係など幅広く記述する。

### スピーカー紹介

リバタリアン起業家で、ARCJ日本アイン・ランド協会の正会員、チャイナウォッチャーの内藤明宏さんをお招きして、基礎的なリバタリアニズムとランドの作品や思想に関してのレクチャーをいただいた。

### 国家と人権の危機？

私自身去年、ARCJが東京大学駒場キャンパスで開催していた公開講演会「自由世界で人権のために戦う意義を問う」に参加したことを思い出した。中国、ロシア、北朝鮮といった権威主義国家の個人の権利の侵害には異議を唱えていかなければならないかもしれないが、そういった国家以上に、日本政府による人権の侵害(特に財産権の侵害)に対しては関心があまり払われていないのではないかという問題意識もある。これは平和主義を標榜する左翼の方々も憂慮すべきことである。米国アイン・ランド協会のヤロン・ブロック氏の言葉を借りるのならば、自国民の人権を蹂躪する国家は他国民に危害を加えることに対しても罪悪感を持ちようがないためである(1)。

### 録画動画のご案内

事前に24人もの応募をいただき、SNSでも多くの方が共有してくれたようで第一回の時よりも少しずつでも知名度の上昇を感じた。ウェビナー時間は一時間を予定していたが、ITチームの不手際もあり、Facebookでのライブストリーミング配信ができなかったため、急遽Zoomレコーディングという形態をとることになった。Students For Liberty Asia PacificのFacebookアカウントにアップロードされているので、ぜひご覧いただきたい。

### アイン・ランドを知る意義とは？

今回のテーマはアイン・ランドとリバタリアニズムである。この

ような粗いテーマ設定にも関わらず、スピーカーを引き受けていただいた内藤さんには感謝してもしきれない。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

『リバタリアン』第3号で長谷川氏が指摘したように、ヨーロッパ、アメリカのリバタリアニズムのカンファレンス、会合においてアイン・ランドの存在感には目を見張るものがある(2)。ランド自体がコンテンツであり、ブースなども充実している。日本においてアイン・ランド研究の第一人者でもある藤森かよこ氏も指摘している通り(3)、彼女にまつわる多数の陰謀論の本が出版されている。確かにランドの著作の翻訳者でもある、脇坂氏も述べているように米国の保守主義者、リバタリアンにはランドの影響を受けている人物が多数存在する(4)ため、陰謀論の対象になってしまうのは仕方ないことなのかもしれない。

いずれにせよ、全世界のリバタリアンと共通のベースで話すためにも、ランドの考えに賛同するかしないかは別にして、アイン・ランドという人物の存在、考えを念頭においておくことは必須であるように思われる。

### アイン・ランドの考えを広めるインフラストラクチャー

SFLのイベントでもオブジェクティビズム(5)月間と銘打って企画することもあり、頻繁にアイン・ランドがテーマのイベントは開かれている。さらに、Students For Libertyにもプロメテウス・フェローシップPrometheus Fellowshipが2022年より開始した。今年度は、東アジアから2名が今年度は選出された。このプログラムは非常に野心的であり、一人の生徒に対して4万ドル以上の投資を行い、選抜されたメンバーは高度な哲学教育やメンター制度、リーダーシップなどのベネフィットを受け取れるだけではなく、毎セミスター毎に500ドルのボーナスも受け取ることができる。2022年度は36か国、320名の応募から50名のコーディネーターが選抜された。2023年度は、東アジアからは2名が選出された。このフェローシップを提供しているプロメテウス財団(Prometheus Foundation)(6)が、ランドの考え(オブジェクティビズム)を広めることに協力、援助する団体である。それ以外にも先ほど引用したヤロン氏が代表理事を務めている米国アイン・ランド協会(Ayn Rand Institute)、そのアイン・ランド協会から分離したアトラス協会THE ATLAS SOCIETYなども存在する。学生向けの教育プログラムや奨学金も充実しており、日本との規模の差を伺うことができる。

日本でアイン・ランドの名前を聞くことは殆ど聞くことは稀である、余談になるが、私が大学で履修していたアメリカ文学の授業や文化論の授業でも一切出てくることはなかった。

### ウェビナーの意義？

これらを踏まえると今回のウェビナーの価値も少しは伝わるのではないだろうか。

ウェビナーの構成としては、おおまかにいって①リバタリアニズムについての概説②アイン・ランド、オブジェクティビズムの紹介③リバタリアニズムとオブジェクティビズムの相違点、同一点④質疑応答である。

まず、SFLのボードアドバイザーも務められており、米国のリバタリアン系のシンクタンクであるケイトー研究所の上席研究員であるDavid BoazのThe Libertarian Mind: A Manifesto for Freedomを参考にしながらリバタリアニズムの中核原理を説明いただいた。

ボアズは自然権からリバタリアニズムを正当化しており、社会契約論や帰結主義をとる論者とは根拠づけの仕方が異なる。このあたりが、統一見解があるオブジェクティビズムとの大きな違いであるようだ。また政治思想と分類法として、リバタリアン党の創設者でもあるデビット・ノーランが考案したノーラン・チャートの有用性を強調したい。2軸でみることの重要性はもちろんのこと、個人の自由も、経済的自由も軽視した権威主義の行きつく先は全体主義であると示しており、日本の右派、左派の言い争いを踏まえてみると、

非常に秀逸な図であることが伺えよう。また、ポリティカルコンパス (7) などを使い自らの立ち位置をはっきりさせるという指摘も非常に有意義である。自分自身を納得させるだけでなく、客観的な指標として対外的にも大きな意味を持つ。

オブジェクティブイズムはリバタリアニズムより広範な思想であり、認識論、形而上学までその領域は及ぶ。芸術論にまで及んであるという話はとても印象に残った。そのような違いもあり、オブジェクティブイストとリバタリアンは外から見れば親和性が高く、一括りに攻撃されることも多いが、緊張関係にあるといえる。

### ランドを読む前にできること

ランドは敷居が高いという指摘がある。確かに値段も本のボリュームもなかなかのものである。ランドの思想を知りたいという観点からなにか一冊読むとするならば『肩をすくめるアトラス』を読むことを薦めたい。また、『アンセム』は、ページ数が少なく、簡潔でディストピアものとしても読めるため、入り口としておすすめできるのではないと思う。また、ランドの著作へのステップとして『1984』をお薦めいただいた。全体主義の恐怖からの反動によって、考え方が変わるということも往々にしてある。作者のジョージ・オーウェルはリバタリアンではないが、彼の著作は全体主義の恐怖を克明に描き出している。しかし、この世界は既に支配が完了した後で、主人公のウィンストンが強大な力に屈服するのみである。その点ランドの『肩をすくめるアトラス』は、政府による強制、規制が強まっていくが、起業家たちの反撃までを描いており、『1984』のような一方的な統制では終わらない。その意味では痛快といえるかもしれない。

また、小説ではなくエッセイの中では「本来の政府」「個人の権利」が本質についており特におすすめである。近々別のエッセイの翻訳が出版される予定もあるようである。

### 最後に

欧米のリバタリアンだけでなく、ほかの地域でも多様な教育プログラムやサポートを通してランドの考えは広がっている。その意味で英語と同じようにアイン・ランドは共通言語といえる。そのため、我々が彼女のことを理解することが必要だと思われる。しかし、リバタリアンとオブジェクティブイストは緊張関係にあり、オブジェクティブイストの中でも方向性の違いやランドへの考え方の違いで分派もしているため多少の注意が必要である。

最後に今回のスピーカーである内藤さんからのアドバイスを引用して締めくくりたいと思う。ランドの著作を読むうえで、アイン・ランドの思想を理解してやるぞと意気込んで読むのではなく、一つの長編小説を読むのと同じ感覚で『肩をすくめるアトラス』を読んでみてはいかがだろうか。

(いとう ひかる Students For Liberty Regional Coordinator)

### 注釈

(1) このブログからは講演会の様子もアップされているので、よろしければみていただき。 <https://aynrandjapan.org/column/4160/>  
2023年6月17日確認

脇坂あゆみ (2022) 「自由世界で人権のために戦う意義について」日本アイン・ランド協会。

(2) 長谷川裕子 (2023) 「LibertyCon 2023 に参加しました」リバタリアン協会 (2023) 『リバタリアン』第3号。

(3) 藤森かよこ (2016) 「アイン・ランドと新自由主義」『都市経営』No. 9, pp. 17-33.

(4) 脇坂あゆみ (2016) 「トランプを支えるアイン・ランド信者の正体」東洋経済オンラインこちらも参照されたし。脇坂あゆみ (2015) 「日本人が知らないアメリカ的政治思想の正体」東洋経済オンライン。

(5) オブジェクティブイズム (客観主義) は、アイン・ランドの思想体

系。アカデミズムでは無視ないし軽視されているが、アメリカのオールド・ライト、保守主義、リバタリアニズム運動の原動力の1つとなった。

(6) プロメテウスファウンデーション <https://prometheusfdn.org/>

(7) ポリティカルコンパス <https://www.politicalcompass.org/>

## 箕面市減税会が発足(復活)しました！

どうも皆さん、箕面市減税会です。このたび、箕面市減税会が発足(復活)することになりましたので、この場をお借りしてご挨拶させていただきます。箕面市の皆さん、全国の皆さん、これから精力的に活動する所存ですので、どうぞ応援のほどよろしくお願いいたします。

### 減税会とは？

さて、減税会のことを知らない方もいらっしゃると思うので、減税会の紹介をさせていただきます。

減税会とは、減税を目的とした草の根運動です。中央組織を持たない自律分散的な点に特色があり、現在のところ全国で約100団体が確認されています。政治団体だったり、個人だったり、サークルだったり様々です。

### なぜ減税会が全国で増えているのか？

税負担が重いと感じる人が全国的に増えているからです。

ところで、国民負担率をご存知でしょうか？国民負担率とは、日本国民の所得のうち、税金や社会保障で負担している割合のことです。ふだん税金をあまり気にしていない人に聞くと「うーん、20%くらいかなあ」と答えることが多いらしいです(1)。しかし、財務省の発表によれば、令和3年度の国民負担率は48%(実績、赤字国債を含めると57%)、令和4年度は47%(実績見込み、同上61%)となっています(2)。私たちは給料の半分を政府に納めているというわけです。

しかし、それが還元されている実感はありません。実際のところ、税金が適切に使われている保証すらありません。具体的には、各地域の事務事業評価を参照願います。

このような状況では「減税会が誕生するのはむしろ必然である」と言えます。減税会の勢いは今後も加速していくことでしょう。今のうちに会員登録しておけば古参面できます。

### なぜ減税会が必要なのか？

減税会の活動が減税に効果的だからです(少なくとも会員はそう考えています)。

ところで、議会ではどのようにして政策が決定されるのでしょうか？議員の政治的基準は票数(選挙に勝てるか否か)です。これを前提にすると、減税を望むなら、票数を集めて議会に声を届ける必要があります。有権者の皆さんが会員登録をすればするほど、減税に近づきます(登録は1-2分で終わります)。

減税会の中には、減税の財源を提案したり、議会の会派と政策協定を結んでいる団体もあります。

### 本当に効果があるのか？

これまでの実績として(他の減税会の実績ですが)既にNHK党の浜田議員や、各地域の政治家の方が減税に賛同していただいています。減税を公約に掲げていただいたり、議会で質問していただいたりした事例もあります。事務事業評価を導入(すら)していない市に、導入した事例もあります。

### 箕面市減税会のモットー

箕面市減税会は、楽しく朗らかに活動することをモットーにします。深刻に考えるのは精神的負担が大きいからです。私たちは自由のために活動していますが、政治に悩まされるのは本末転倒です。

もちろんノルマはありません。有権者として登録するだけで大丈夫です。

活動は、ビラ配りと勉強会、交流会をメインにやっけていこうと考えています。興味があれば参加して頂けると幸いです。

最後に、減税会の会員登録をお願いします！

(箕面市減税会)

### 註釈

(1)財務省HP「令和5年度の国民負担率を公表します」<https://www.mof.go.jp/policy/budget/topics/futanritsu/20230221.html>、2023/06/13確認。令和5年度の見通しも発表されていますが、おそらくもっと高くなるでしょう。

(2)他の減税会の人々の経験則による。

## リバタリアン減税会発足について

こんにちは。私たちはリバタリアン減税会です。今日、数多くの減税会が生まれています。その流れの中で、リバタリアンを核にした減税会として、当会は発足しました(1)。今回は、リバタリアン減税会の理念を示そうと思います。よろしくお願いいたします。

### リバタリアン減税会の理念

リバタリアン減税会は、その名の通り、リバタリアンによる減税会です。専門用語に不慣れな読者のために解説しますと、まず当然のことながら、減税会とは減税と規制緩和を志す人々による集団です。次にリバタリアンとは政治的概念であり、強制を行う権威者や政府を嫌い、個人の自由を最も強固に擁護します。よって、リバタリアン減税会は、非政府的で徹底的な減税を志す人々による集団です。

### リバタリアン減税会の活動方針

リバタリアン減税会はどのような活動をするのか。①反リバタリアン税制を調査・告発すること、②他の減税会との協働が主な活動です。地縁的な多くの減税会と異なり、リバタリアン減税会は理念(リバタリアニズム)によって結びついています。なので、特定の自治体に縛られるのではなく、日本全国(あるいは全世界)の税に挑戦し、日本各地の減税会と共に活動します。その際、選挙区に紐づいた有権者情報を基に活動を行う予定です。また今後、オンライン上で定期的なミーティングも行う予定です。

### 会員募集

現在、リバタリアン減税会は会員を募集しています。希望者は以下の入会フォームにて入会をお待ちしております。

<https://forms.gle/K7JTfCcgYKbapaeP8>

(リバタリアン減税会)

(1)発足自体は2022年の4月だが、休眠状態にあったため今回再起動となった。

## リバタリアン協会からのお知らせ

リバタリアン協会では、以下の事柄を募集しております。

### 機関紙『リバタリアン』の記事の寄稿

機関紙『リバタリアン』は、寄稿者の皆様の信念と、読者の皆様のご厚意によって成り立っております。記事の寄稿がなくなると、機関紙は存続出来ません。理論的なこと、実践的なこと、いずれでも構いません。数百時低度の小さな話題でも構いません。皆様の寄稿をお待ちしております。寄稿を希望する方は、協会メールアドレス[info@institute-for-libertarian.org](mailto:info@institute-for-libertarian.org)に連絡していただくか、下記のディスコードサーバー(リバタリアン・サークルサーバー)より、申し出てください。なお、記事の基本的な要件は以下の通りです。※詳細は希望者に別途お知らせします。

- ・リバタリアン思想・運動に関係する内容であること
- 可：リバタリアン社会主義、無政府資本主義
- ・日本語で書かれていること。ただし、協会が認めた場合はこの限りではない
- ・引用は明記すること
- ・寄稿記事の著作権及び著作者人格権の放棄に同意すること。ただし、寄稿した記事がリバタリアン協会により掲載拒否された場合はこの限りではない
- ・記事はドキュメントファイルにて寄稿すること

### ディスコード・サーバーへのお誘い

リバタリアン・サークルというディスコード・サーバーがあります。リバタリアン及びリバタリアン希望者の皆様の情報共有の場としてご利用ください。以下のQRコードより参加可能です。参加されましたら、自己紹介チャンネルにて、自己紹介をお願いします。

なお、言論の自由は原則ありますが、荒らし投稿や、サーバーを破壊する書き込み(ディスコードのシステムを利用したもの)は禁止です。

(リバタリアン協会)



### 推薦論文

Widerquist, Karl (2008) "Libertarianism," in O' Hara P (ed.) *International Encyclopedia of Public Policy: Governance in a Global Age*, Vol. 3, Perth: GPERU, pp. 338-358.

ウィダキストは残念ながら日本ではあまり知られていない。彼は政治哲学が専攻で、リバタリアニズムに関する論文をいくつか執筆している。"Libertarianism"は、リバタリアン必読の論文である。

彼はリバタリアニズムを、右派リバタリアン、左派リバタリアン、リバタリアン社会主義に分類する。日本でリバタリアニズムと言えば右派リバタリアン(と最近では左派リバタリアン)のみを指し示す用語として流布されているが、ウィダキストはリバタリアン社会主義を包含している。

リバタリアン思想と運動を理解するにあたって、左右のリバタリアンを理解することは非常に有用なので、リバタリアンは是非挑戦してほしい。